

東北農政局国営事業技術検討会（再評価）

I. 日 時

平成 30 年 6 月 19 日（火） 10：00～11：45

II. 場所

仙台合同庁舎 B 棟 2 階 共用第一会議室

III. 出席者

別紙のとおり

IV. 技術検討会議事内容

【開 会】

○事務局（設計課）

それでは、委員の皆様がおそろいになりましたので、ただいまから再評価に関します東北農政局国営事業技術検討会を開催いたします。本日は、委員改選後初めての検討会でございます。委員長が選出されるまでの間、事務局の方で司会をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

それでは、開会に当たりまして、東北農政局国営事業管理委員会の委員長であります高居農村振興部長より御挨拶申し上げます。

1 挨拶

○高居農村振興部長

皆様、おはようございます。農村振興部長の高居でございます。

本日は御多用中のところ、委員の皆様には技術検討会に御出席いただきまして誠にありがとうございます。また、農業農村整備事業はじめ、農政の政策全般につきまして、いろいろ御助言あるいは御指導など頂いておりますことを、この場を借りて、厚く御礼申し上げたいと思います。

本日の技術検討会でございますが、国営かんがい排水事業「中津山地区」の再評価結果（案）について、審議をお願いするものでございます。

なお、先般、東北農政局として、再評価結果（案）を中津山地区に関係する団体にお示ししまして、各団体から意見を聴取し、本日提示させていただいておりますこの再評価結果（案）に反映しているところです。

5 月 24 日には、委員の皆様にも現地調査を行っていただいたところではありますが、本日は現地の状況なども御勘案いただきながら、忌憚のない御意見を賜りたいと思っております。限られ

た時間ではございますけれども、どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局（設計課）

ありがとうございます。

次に、本技術検討会の公表の方法について御説明いたします。

本技術検討会は傍聴について可とし、配布資料は会議終了後に、また、議事録は内容を確認いただいた上で発言者を明記し、それぞれホームページにて公表することとさせていただきますので、御了承願います。

なお、本日は新聞社1社から傍聴を受けておりますので、御報告いたします。

次に、配付資料について御確認させていただきます。

（配付資料を確認）

次に、本日御出席頂いております技術検討会委員の皆様を五十音順で御紹介させていただきます。

（委員紹介）

なお、本日出席しております東北農政局事業管理委員会の委員については、お手元にお配りしております出席者名簿、座席表をもって紹介に代えさせていただきますが、防災課長の西尾につきましては、本日、業務の都合で急きょ欠席となっております。代わりに重原災害査定官が出席しております。

（冒頭のカメラ撮りは、ここまでとさせていただきます）

それでは、議事に移りたいと思います。

2 議事

（１）技術検討会委員長選任

まず、（１）の技術検討会委員長の選任でございます。

参考資料の「東北農政局国営事業管理委員会設置要領」がございますが、こちらの最後のページに「別紙1」に本技術検討会の規程がございます。こちらの第2の3に、「技術検討会の委員長は、各委員の互選により定めるものとする。」とされております。

委員の皆様の中で委員長について御意見がございましたらお願いいたします。いかがでしょうか。

○冬木委員

郷古委員にお願いできればと思います。

○事務局（設計課）

ただいま、冬木委員から郷古委員に委員長をお願いする旨の御提案がございました。皆様いかがでございましょうか。

（「異議なし」の声あり）

ありがとうございます。御賛同いただきましたので、本技術検討会の委員長を郷古委員にお願いすることといたします。

それでは、ここで郷古委員長から御挨拶をいただきたいと思います。また、以降の議事につきましては進行を委員長にお願いしたいと思います。委員長、よろしくお願いいたします。

（２）技術検討会委員長挨拶

○郷古委員長

委員長を仰せ付かりました宮城大学の郷古です。よろしくお願いします。

先日の現地調査、本当にありがとうございました。後谷地排水機場については共用を開始し、鶴家排水機場も、まもなくの供用開始を待つばかりとなっている状況を確認させていただきました。

そのほか、地域の農家の方、施設園芸の方、水田農家の方、いろいろお話を聞かせていただきありがとうございました。参加された委員の方は、その効果や成果を見ることができたと思います。

この中津山地区は、平成 20 年度に始まり工事の期間は平成 31 年度までの予定と、完了までもうすぐのところですよ。工期としては残りわずかですが、今回の事業再評価の検討がよりよい事業につながるように、また、今後の事業の教訓になるように、更には事後評価にもつながるような忌憚のない御意見を頂ければと思います。

（３）技術検討会委員長職務代行の指名

○郷古委員長

先ほどの技術検討会の規程の第 2 の 4 の規定によりまして、「委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名する者がその職務を代行する。」とされています。

私といたしましては、冬木委員に委員長代行をお願いしたいと思います。皆さんよろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

それでは、冬木委員を委員長職務代行として指名させていただきます。冬木委員改めてよろしくお願いします。

（４）中津山地区地区別評価結果（案）等について

それでは、（４）の①中津山地区地区別評価結果（案）等の説明について、事務局から説明をお願いします。

○事務局（事業所）

（中津山地区について説明）

○郷古委員長

丁寧な説明、ありがとうございました。

ただいま、事務局のほうから説明がありました、中津山地区評価結果（案）について、質疑

を受けたいと思います。

○伊藤委員

現地を見させて頂いた時の感想になりますが、後谷地排水機場が完成し、それによって、資料にもありましたが平成 29 年の台風では被害がなく、農家の方から喜ばれていると、その点は評価できると思いました。また、トマト農家の方のお話ですと、排水機場ができることによって、収量が上がるのではとの期待もあり、こねぎ農家の方も、排水対策がしっかりされることによって、冠水被害がなくなり、安心して栽培できるのではないかとのお話もありました。ただ、こねぎを栽培しているハウスの中に、曲がってしまっただけで商品化できないこねぎが山積みになっていて、あれを何とか加工などして商品化できないものかと思いました。

また、大谷地地区の生産組合の方からお話を聞かせていただいたとき、排水機場ができることによって、今まで水稲しか栽培できなかったところでも、大豆とか小麦とかつくれるようになると、良いお話を聞かせて頂いたのですが、ちょっと残念だったのは後継者がいないということです。今後、次世代につなぐ取組といたしますか、次世代につなげる農業の在り方とか、そういうお考えはありますでしょうか。

鶴家排水機場では、子どもたちを含めて、地域の方にこの施設を知ってもらおうという取組をしていることは良いと思います。騒音対策も行いながら工事を実施して、地域の方々に排水機場が有る意味を伝えるということは非常に良いことだと感じましたし、子どもたちに伝えること、次世代につなげるという意味でも良いと思いました。

また、景観に配慮した建物であったり、生き物に配慮した工事を実施したりしていることも評価できると思いました。

全体を通して、いろいろな面で配慮している中津山地区は非常に評価できる地区だと感じました。

○郷古委員長

ありがとうございました。ただいまの伊藤委員からの発言は、費用対効果とは直接的に結びつかないのかもしれませんが、6 次産業化であったり、後継者の問題であったり、地域や受益者の方々に効果を実感していただくための取組というお話だったと思います。おそらく、ほかの組織との連携も必要になってくるのかもしれませんが、何かコメントなどありましたらお願いします。

○事務局（事業所）

伊藤委員から、高い評価を頂き、我々としてもやりがいのある事業だと実感しているところでございます。

後継者の問題、教育を通じた地域との関わりを、今後、どのようにしていくかということは、我々としても課題だと思っております。

後継者については、基盤整備を行っている我々が、直接営農や経営まで行きつけないのですが、今後、産業部局といたしますか、そちらのほうと連携を図れば、後継者対策にもつなげる

ことができるのではないかと考えております。具体的には、土地改良区も含めた地域で、この土地改良施設を維持管理していただきながら、例えば多面的機能支払交付金もこのエリアで行っておりますけれども、これらの取組に排水路や排水機場を一体化してうまく活動を広げていけないかと、改良区と話をしているところでもあります。その中で、施設の重要性や役割とか、そういうことを地域の方々に浸透させていくと、そして安心して農業ができると感じていただければ、後継者づくりにもつながっていくのではないかと考えております。

高収益作物についても、排水の心配がないということをもう少し宣伝していくことで、例えば高台のあまり条件の良くない場所で栽培していた高収益作物も、田んぼの方に下りてみるかと、そういうきっかけにもなるのではと感じているところで、今後の課題ですが、宣伝方法とか、我々として地域に浸透させる方法を、土地改良区や農政局内部部局を含めて相談していきたいと考えております。

○郷古委員長

ありがとうございました。

それでは、次に梶原委員お願いします。

○梶原委員

ほかの事業の視察と重なって、現地調査に行けず、大変失礼しました。

私自身としては、この地域を、震災の前、直後、そのあと何回か個人的に走り回っております。大体、北上大堰くらいまででしたか、津波の影響を見させて頂いておりましたが、排水施設があることは全く知りませんでした。

歴史を見させていただきますと、非常に古くから事業を行っており、おそらく、この地域の方にとって排水機場は、あって当たり前、あるいは、あることすら知らなかったということだと思います。

環境に関してですが、これはデータで見るとしかありませんが、元々あったものを踏襲する形で、環境に大きな変動がある排水先のあたりの生物を移植したと、非常にありがたいことだと思っております。

ちょっと、環境とは違いますが、時々、台風の時に田んぼを見に行くという行動があると思いますが、そういうところに対する安全対策とかはどうなっているのでしょうか。

○事務局（事業所）

排水路については、ガードレール以外の特別な安全施設は設置しておりません。また、排水機場につきましては、遊水池周辺にはガードフェンス設置し、人が転落しないように配慮しています。

○梶原委員

地元との調整が必要かと思いますが、増水時の状況を的確に把握できるのは管理側だと思いますので、そこら辺の配慮をよろしくお願いします。

○事務局（事業所）

安全という意味で、今年、排水の水管理システムを検討しておりまして、排水機場を運転している人が、排水路を見に行つて危ない目に遭わないように、監視カメラを付けるとか、水位計を付けるとか、水管理システムを活用した運転管理をしていきたいなと思っております。また、フェンスの高さも、排水機場の外周は高いフェンスにして入り込めないように、遊水池の周りは乗り込んで落ちないようにする程度の高さということを意識して、我々の基準の中で決定し安全に配慮している状況です。

○郷古委員

ありがとうございました。

それでは、次に高橋委員をお願いします。

○高橋委員

先日は、現地を見させて頂きまして、ありがとうございました。現地でも丁寧に御説明いただきまして、例えば、最初に見させていただきました後谷地排水機場では、小学4年生や中学生を対象とした施設見学会の状況ですとか、実際に訪れた生徒さん、児童さんからの感想文を見させていただき、地元への周知の活動を積極的にされているということがわかりました。

特に、小学生や中学生への教育活動というのは、その後、地元を支える、大人になっていくということを考えると、長期的に見て効果的な活動であると思います。

後谷地排水機場の説明の中で、以前の古い方の排水機場ですと、50mm位の雨で湛水していたのが、昨年度の台風時の雨量100mmを超えても大丈夫だったということで、非常に効果があったということがわかりましたし、遊水池の水位を感知して自動でポンプが動くと、また、仮に停電になったとしても自家発電施設があること、2.4日間は排水ポンプを動かすための重油タンクを設置し万が一に備えていて、非常に心強い対策がされている施設だと感じました。

ポンプを動かすと、非常に音が大きいということで、例えば台風の次の日なども、窓を開けて動かすと音が大きいということでしたが、実際に現地を見させていただき、壁のところに防音材を設置して外に音が漏れないような対策をされていることすとか、地元の方に建設中の鶴家排水機場を見ていただいたり、工事中の音が今どのくらい出ているのかということを見えるようにして地元の方々に伝えたり、非常によい関係が築かれていると思いました。

旧古川排水路の方も見させて頂きまして、排水能力が1.6倍になるということと、先ほど、伊藤委員からもありましたが、アカガエルとかが上れる勾配にするなど自然環境に配慮された施設ですばらしいと感じました。

現地を見て、非常に効果を実感させていただいたところです。感想ですが、以上です。

○郷古委員長

次に、冬木委員をお願いします。

○冬木委員

私も現地を見た感想をお話したいと思います。

かんがい排水事業、土地改良事業全般そうですが、農業農村整備はある意味、短期的な事業ではなく長期的な事業でありますし、効果も長期的に出てくるということだと思います。着工してからかなり経っていますし、なお且つ、お金も大量に投入されるということから、再評価というものが必要で、その際、見る時に考えておかなければいけないなと思っているのが、計画時点と現在の情勢とか農業の在り方とかがどう変わったのかというところだと思います。

それで、資料1の評価結果に書いてあるのですが、評価結果のまとめで「計画的な事業の推進に努めていく必要がある」という評価で、私もそれで良いと思います。現時点で情勢の変化、計画時点から大幅に変更しなくてはいけないことはない、むしろ私が見る限りにおいて、この事業は計画時点より重要になってきていると思っています。

現地を見た実感として、この地帯の排水が困難な状況とか、全体的にフラットな地形で、たぶん湛水すると部分的には完全に作物が作れない状態になるだろうと考えます。それで、現況で農業生産がどうあるべきかと考えると、今年から米の数量目標を国が配分するということが無くなって、地域が主体的に需要に応じた計画的生産を行っていかなければならないと、そうすると、地域で組合せをいろいろと考えなくてはならないことになります。お米と主食用米以外のお米、ほかの転作作物、あるいは高収益作物の組合せが必要で、それを実現するためには、排水というのは決定的大要素になってくると思います。

この地域は、2年3作体系が既に確立されていますし、そこに高収益作物が入ってきてということで、元々の水田中心の農業地帯からすると、ある意味モデル的な事業であったかなと判断しています。そういう意味で、計画時点よりも排水を良くする今回のような事業の必要性が増したなと考えております。

もう一つ、当然のことながら説明責任があるので、定量的な評価はしなくてはいけないので、マニュアルといいますか、全国で評価する手法にしたがって評価していますが、正直なところ、数十年後の様子は感覚的なイメージでしかとらえられないと思いますし、とらえられないから定量的な評価で数字をハッキリさせて評価しているということですが、冒頭にも申しましたように、こういう事業というのは、ある種、歴史の一部になっていると思います。実際に、この地域でも説明資料にありますが、藩政時代から水と戦い続けて、なお且つその水を生かしてきた地域で、そういう歴史があつて、この事業があるんだということ分かってもらわなくてはならない。事業所の方で、地域の小学生を含めて、一種のコミュニケーションを取りながらやっておられるのは、非常に良いことだと思いました。

さらに付け加えて言うならば、今後、必要性だとか、施設が持っている意味だとか、できる限り広く国民に知れ渡るようなPR活動を、パンフレットを作っておられるのもそういう意味があると思いますが、ここでの審議も公表されるということですが、これは見る人が見に行かないとなかなか難しいところもあるので、積極的に意義などを伝えていけるような活動もできたらいいと思いました。

○郷古委員長

ありがとうございました。

ただいまの冬木委員からのお話について、コメント等ありますか。

○事務局（事業所）

ありがとうございます。

現地でもお話ししましたが、排水の効果というものが、そこにある施設というだけになっていて、周りの人がなんとなく分かっていないという感じがあると思います。特に、鶴家排水機場は、住宅地がすぐそこにあるのですが、排水機場が一番稼働するのは台風が過ぎ去った翌日で、青空の時に一番回り出すので、ディーゼルエンジンで熱も出て機場内は暑いので、窓を開けっ放しにして運転すると、そうすると音もすごいので、そのときの騒音だけで迷惑施設として地域の住民にとらえられてしまうということがあって、ただ、それは違うのではないかと、何とかしたいなと、そういう思いは前々からありまして、地域住民の見学会とか、10年後、20年後に担ってくれる小学生、中学生への教育の一環であるとか、そういうものをうまく取り入れながら、地域の方々に分かっていただくような施設にしたいなと思って、前々から活動が続けているというところです。

なお、現在整備している排水機場の防音対策については、機場の中にいろいろと貼ったりして防音をしっかりすると、窓を開けっ放しにしなくてもポンプを回せるようにするとか、その程度のことは、我々としても最低限のことを行った上で、地域の方々には、これは迷惑施設ではなくて、地域の為にある施設だということを分かっていただくと、そういった両面の我々の活動を評価頂いたこと、大変ありがたく思っております。今後、冬木委員からありましたとおり、PR活動について、事業が終わったから終わりということではなく、改良区も巻き込みながら継続した取組ができるように相談していきたいなと思っております。

○郷古委員長

では、私から、先ほどの冬木委員の意見に付け加えさせていただきます。私も同感で、計画時よりも重要性が増していると感じています。

日本というのは、昨日の大阪の地震のように、突発的な災害が非常に多いので、災害に備えた防災・減災の視点が非常に重要になってくると思っています。これは、ハード、ソフトともに、防災・減災の考えを入れ込んでいかなくはいけないということを、特に東日本大震災を経験した我々は実感していると思います。

そのような視点からすると、今回の中津山地区の施設は、地域の防災・減災の施設として非常に重要な位置づけを占めていると思います。

そういう意味では、150数億円の事業費をかけていますが、防災の先行投資とも言えると思います。これは、冬木委員と同じ考えですが、中長期的な視点で総合的に考えれば、地域経済にも貢献しますし、災害時の復旧に要する事業費を考えると、おそらく国費投入の軽減にも貢献すると思います。それが、営農の面も含めて、持続的な地域社会をかたち作っていくものと考

えました。

ただ、そのためには、防災・減災の主流化を、農業関係だけではなく、地域や行政も含めて共通認識を持つ必要があります。地元行政の理解、応援、PRが非常に重要であると思っています。

国営土地改良事業は、事業が完了すると事業所は閉鎖します。事業を実施している間、核となる事業所がある間に、土地改良区や行政、場合によっては農業関係団体も含めて、できれば、非農業的な組織も含めて、いかに仕組みを作っていくのが重要だと感じました。

事業所を閉鎖した後もそういう活動が持続的に進んでいくような仕組みを、是非とも事業実施中に御検討いただきたいと思います。

○高居農村振興部長

農政改革の中で、産業政策と地域政策の両輪という話をしていますが、地域政策というのは総務省や国土交通省、各省庁がやっていて、農林水産省は農地、農村があるから地域施策といっていますが、なかなかそこがうまくいっていない。先ほどの防災の話でいきますと、あのような大きな排水機場をなぜ農林水産省が造っているのかという疑問も聞きますが、それに対する説明もなかなかできていない状況で、また、地方紙の記者と意見交換をすると、同じようなことを言われたりもします。一方、市町村は、大きな排水の仕事は国と県ですよと、市町村は負担しないという考えが多いのが現状です。

ただ、農業用水由来の排水、根本的に地域の農業を支えるためには排水が必要だという地形的な条件がありますので、市町村には、降雨があったときの排水と農業用水を入れたことによる排水の2つを分けて理解してもらう必要があると思っています。

維持管理費についてですが、降雨による排水については、もうちょっと行政の負担なりを考える必要があるのではないかと思います。

先ほど、冬木委員のお話にあったとおり、水稻から高収益作物に転換するときに、排水改良は重要で、排水が十分改良されていると野菜などを作れる面積が広がってくると、その辺も我々として、この事業をきっかけに、どのエリアで安心して野菜などが作付けできるようになったのかと、そういうことを改良区や市町村にお示ししていかななくてはいけないと思っているところ です。

様々な機会を通じて、改良区や市長さんに、今回の事業の様々な効果を定量的にきちんと説明していかななくてはいけないなと思っています。

○郷古委員長

ありがとうございました。

ほかに御意見、御質問はございますか。

細かいところですが、資料－１の４ページ目の（３）地域内の環境調査についてですが、先ほど、説明していただいた資料－４では、モニタリング調査を実施して、生息や活着が確認されたと書いてありましたので、資料－１にも調査結果を記載していただいた方が良いと思いま

す。

また、資料－１の【評価項目のまとめ（案）】のところ、最後の段落に、「今後も地元負担の増加とならないよう一層のコスト縮減に努めると共に」とあります。当然、工事費のコスト縮減という意味もあると思いますが、ランニングコストも含めて縮減すると表現していただければ、管理も含めて総合的にコスト縮減を行っていると感じていただけたと思います。

また、そもそもの話で恐縮ですが、再評価をすることになった要因ですが、当初計画は事業期間がもっと短かったと思います。その間に東日本大震災などがあり、事業期間が長くなったということでしょうか。

○事務局（事業所）

東日本大震災によりまして、地区内の地盤が沈下しまして、沈下した状況を反映させて排水解析をやり直しまして、湛水するエリア等を再度検証・確認して、排水機場の設計についても見直す必要があるかどうかの検討もしました。それらの検討に時間を要したため、事業工期が２年、延びることになりました。

○郷古委員長

ありがとうございました。

ほかに、最後、質問しておきたいことや御意見などありましたら、お願いします。

○冬木委員

今回の検討会では、技術検討会の意見を取りまとめることになると思いますが、それまでの間に、事前に意見の案などについて、やりとりできるようにしてもらおうと、次回の委員会がスムーズに行くのではないかと思います。その方法については、事務局と委員長で工夫して頂ければありがたいと思います。

○事務局（設計課）

今回の技術検討会では、委員の皆様から最終的な御意見をいただくことで考えておりますけれども、その意見については、委員長と事務局のほうで、調整しながら進めていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○郷古委員長

ほかに御意見等ございませんでしょうか。

ないようですので、以上で再評価結果（案）及び質疑応答を終わらせていただきたいと思います。

議事の最後になりますが、３その他について、事務局から何かありますか。

３ その他

○事務局（設計課）

今後のスケジュールについて御説明させていただきます。

次回の技術検討会は、７月１７日の火曜日、１０時から行うということで、御案内申し上げてい

るところです。

会場は、B棟2階共用第二会議室で行いますので、お忙しいところとは思いますが、御出席いただきますようよろしくお願いいたします。

○郷古委員長

ありがとうございました。

それでは、本日の委員の皆様の御意見、御質問等に対する回答あるいは追加的な説明については、事務局と私のほうで事前に調整させて頂きまして、次回の技術検討会で事務局から説明をお願いしたいと思います。

その上で、技術検討会としての最終的な意見を取りまとめていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

議事の全てが終了いたしましたので、進行を事務局の方へお返しします。

【閉 会】

○事務局（設計課）

本日は、お忙しいところ御審議ありがとうございました。これをもちまして、本日の技術検討会を終了させて頂きます。ありがとうございました。